



今年度中に認証する 生徒心得について！！

<頭髪>

- ・学管活動に支障をきたさないこと
- ・パーマ、ワックス、染色、脱色は引き続き不可
- ・整髪剤の使用、持ち込みは不可
- ・エクステウィッグ等は認めない
- ・髪の色は前髪が目にかからない。
- ・肩以上に伸ばす場合は結ぶか編む

可能になる髪型 (編み込みはしない)



<防寒着>

防寒着は今年度から部活動などのウィンドブレーカー・ジャージ・ベンチコートなども可能となります(ワンポイント)。ただし、着て登校した防寒着は、自分のバックに入れて教室の後ろの棚で自己管理することになります。

<髪ゴム・ヘアピン>

<髪ゴム>

- ・装飾のない髪ゴム◎
- ・色は目立たない色◎

(白色などの目立つ色は不可)

<ヘアピン>

「アメピン」「パッチンピン」◎

<時計(精密機器) >

自己管理や勉強に支障をきたすようなもの(スマホ・時計) 引き続き持ち込み不可

<キーホルダー・缶バッジ・ポーチ>

自分のバックだと分かる程度(部活動の道具やカバンなども同様) つけすぎると周りのじゃまになったり、歩くたびにガチャガチャと音がなってしまうので、その点で常識ある個数を付けるようにしてください。

※次のページは不可の対象とする



新しい大中スタート!

令和6年度入学生から新しいデザインの大村市統一型制服に変わることに伴い、生徒心得の見直しも行われ、4月1日より施行されます。

新しい生徒心得は生徒が健全な学校生活を送り、よりよく成長・発達していくために設定するもので、以下の4つを基本方針としています。

- 新しい生徒心得の基本方針
- ①自他の学習活動の妨げにならない行動をする。
 - ②自他の健康・安全に留意した行動をする。
 - ③他者の権利を尊重した行動をする。
 - ④公共のマナーを考えた行動をする。

本校では、「生徒心得見直し実行委員会」を立ち上げ、生徒たちが自ら生活を見直し、生徒心得の部分的な見直しを行い、すでに2月26日から実行しています。左に示しているのは、変更になったことを「生徒心得見直し実行委員会」が生徒に周知するために作成した資料です。

例えば、これまで”ツープロック”と言われる髪型は認められていませんでしたが、一部分を極端に伸ばしたりした特殊な髪型でなければ認められるようになりました。3月末日までは、「生徒心得見直し実行委員会」で決めた生徒心得を守っていくこととなります。靴下や靴の色等については、生徒たちが特に急いで変える必要はないと判断したため、4月から着用が可能になります。化粧や装飾具、染髪などは基本方針に反しているので4月からも認められることはありません。詳細はこの学校だよりと同時に送信している、『大村市統一型制服導入に伴う新たな「生徒心得」』で確認をお願いいたします。

大村市統一型制服が導入されても、新2・3年生は今の制服を着用するので、基本的に購入する必要はありません。新制服の導入に伴い、各メーカーの在庫状況もまだよくわからない状態です。詳細がわかりましたら、新年度にお知らせいたします。急な買い換えが必要になるような御事情が生じた場合は、個別に御相談ください。

お知らせ 4月の主な行事予定をお知らせします。
 なお、3/8時点の予定であることに御注意ください。

8日(月) 始業式	9日(火) 入学式
16日(火) 3年PTA	17日(水) 2年PTA
25日(木) 授業参観・PTA総会	
26日(金) 歓迎遠足	

大村市青少年健全育成研究大会

三城小学校区代表
梶原 優花 さん



3月3日(土)に三城小学校区代表として、2年生の梶原さんが意見発表をしました。梶原さんの発表は、当たり前前に生活していることのありがたさ、自分を含めたすべての人の命の尊さを改めて考えさせられるすばらしい発表でしたので、紹介します。

「命の記憶」 大村中学校二年 梶原優花

周りの物が、ガタガタ！と揺れました。地震でした。私は5歳でした。初めて、命の危険を感じました。これが、私の最初の“命の記憶”です。

私は今までたくさんの人やものに守られて生きてきました。それはとてもありがたいことで、幸運なことだと思います。私たちが普段、当然のように生活しているとき、どこかで事件や事故の被害で苦しんでいる人がいると考えると、命の大切さを感じることは大事だと思います。少しだけかもしれませんが、それは重要な第一歩だと思います。

皆さんにとって“命”とはなんですか。私たちは当たり前のように命を抱えてしまっていて、命の尊さを忘れていないでしょうか。自分の命を思い出し、感じるができるのは、手遅れになったときや、命の危機に直面したときだと思います。

私の生まれは兵庫県で、生まれて数か月経ったところに、地震があったそうです。その時は生まれたばかりで、当たり前だけど、私は詳しい状況は分かりませんでした。

その後京都に引っ越して、妹が生まれてすぐ、また地震がありました。まさにその時が、私にとって“命の危機”に直面した瞬間でした。まだ五歳だった私は「地震」というものの存在を知らず、揺れる家具を見て、ひたすら怖かったことを覚えています。その時周りにいた家族は、泣いている私と妹を泣き止ませることで精一杯だったと、後から教えてくれました。

この経験から私は、たくさんの人に助けられ、守られていると実感しました。幼いころは“命”について考える機会は少なかったけれど、中学生になり、自分がたくさんの人に支えられていると思うと、今度は逆の立場になって、周りの人を支えたいと思うようになりました。それは友人関係でも同じです。

私は今まで、自分の意見を言わずに、友達の意見に賛成する癖がありました。自分のことについて知ってもらおうとしていませんでした。しかし、自分のことを嘘なしに、はっきりと伝えることができる友達に出会ってから、少しずつ変わっていきました。互いの存在を大切にするためには、まず相手を知ることが大事だと思います。今では、自分のことばかりでなく、他の人のことを、質問などをして知っていき、お互いに仲のいい友達になっていきたいと思っています。たくさんの人に守られてきた、私の“命”。これからは、そのお返しに、家族や友達のことを守っていききたいのです。

また、当たり前のように日常を過ごしている間にも、心が傷ついている人がいると思うと、事件や事故を解決したくなると思います。中学生の私たちにできることは少ないかもしれませんが、それでも人権学習をしっかり学んだりすることで、少しは変えられると思います。

最近では、ネットでの悪口が多く見られますが、直接悪口を言われるのと、ネットで悪口を言われるのは、同じくらい傷つきます。言葉はナイフにもなるので、一つ一つの言葉に気を付けることも、大切なことだと思います。

私は、神様に毎年お願いしていることがあります。それは、「みんなが良い年になりますように。」です。毎年同じお願いはおかしいかもしれませんが、自分だけでなく、周りの人にも、幸せになってほしいのです。

私が幼いころに経験した、“命の記憶”。

命の尊さを忘れず、“命”を感じながら、生きていきます。